

釧路湿原自然再生協議会
第 28 回 再生普及小委員会
議事要旨

日時：平成 28 年 1 月 16 日（金）13:30～15:30

場所：釧路地方合同庁舎 5 階 第 1 会議室

1. 開会
2. 議事
 - 1) 再生普及小委員会の活動について
 - 2) 自然再生の普及のためのパンフレットの作成について
 - 3) その他
3. 閉会

事務局

挨拶

資料確認

【議題 1. 再生普及小委員会の活動報告】

事務局

資料説明（資料 1-1 1. WG 等の開催）

資料説明（資料 1-1 2. ワンダグリンド・プロジェクトの推進 3. 情報発信・普及活動の拡充）

資料説明（資料 1-1 4. 自然再生事業の現地見学会及び自然再生活動への参加機会づくり）

委員長

ワンダグリンド・プロジェクトの実施報告書（資料 11 ページ）での主催者の記載について意見がほしい。

第 3 期釧路湿原自然再生普及行動計画において再生普及小委員会の役割、各委員会の関係性についての変更があった。これまでは、再生普及小委員会は釧路湿原自然再生協議会の中の一つの小委員会として位置付けられ、主に一般の方たちへの再生普及の活動を紹介する役割を担っていた。今後は釧路市周辺の湿原とともに暮らしている方たちへ向けての宣伝活動だけを行っていただくだけではなく、全ての小委員会を束ねる役割を担うこととなる。新しいアイデアを持って活動しなければいけない状況にある。本日色々なアイデアを出していただきたい。

現地見学会でのアンケート結果に「不満」というものがあつたが、ヨシの植栽が体験で

きる時間が少なく見学になってしまったという理由であった。参加者が望んでいることは、見学会ではなく体験することである。時間がない、用意した物が足りないというような理由で限定されてしまい不満という結果になった。今後はそれらを踏まえて様々な企画を考えていきたい。

フィールドワークショップについて、案内していただいている委員に意見をいただきたい。

委員

フィールドワークショップは、ワンダグリンダ・プロジェクト参加者が現地に行って体験・調査し、釧路湿原の現状や自然再生事業がどのように取り組まれているかを今一度考えようというものである。夏と冬に開催しており、これまでは私たち人間の影響を直接受けている湿原周辺を散策し踏査してきた。今後はまだ人間活動の影響が及んでいない本来の湿原の状態が保たれている核心部に行くことになる。そこは私たちの将来像の自然が展開している湿原である。フィールドワークショップでは、いよいよそこに出かけるという段階になってきている。

第3期釧路湿原自然再生普及行動計画のステージに入ってから、再生普及小委員会は各小委員会が普及のためにやっている事業を統括して紹介するという役割が出てきた。そのため、この実施報告書には各小委員会が取り組んでいる内容を紹介することになった。例えば幌呂地区の湿原再生現地見学会(資料13ページ)の主催は湿原再生小委員会事務局(釧路開発建設部治水課)という表現の方が正確ではないか。

委員

開催時の案内では、主催は湿原再生小委員会、共催で再生普及小委員会としていた。

委員長

事業をするにあたり曖昧なまま行ってきたことが沢山ある。釧路湿原の自然再生については釧路湿原自然再生協議会の各小委員会が担当し、その専門の分野について主催して何か事業を展開している。再生普及小委員会ではその事業について市民に報告する。できるだけ具体的にわかってもらうように宣伝も兼ねるといような役割を担うことが必要である。

正式な書類における主催や共催等の記載は、具体的な検討が必要ではないか。

事務局

主催者は湿原再生小委員会とし、括弧書きで釧路開発建設部治水課というような書き方をするといいか。

委員

実際に実施する際のパンフレットでは、釧路湿原自然再生協議会が主催であり、各小委員会が共催になっており、担当が釧路開発建設部や釧路自然環境事務所になっているのではないか。

事務局

事務局：湿原再生小委員会（釧路開発建設部治水課）という形で良いか。

委員長

釧路湿原自然再生協議会があり、小委員会があり、担当している部署があるというように、3つの関係を整理する必要がある。

委員

釧路湿原自然再生協議会は入れなくても良いのではないか。主催が湿原再生小委員会、担当は釧路開発建設部で良いのではないか。

事務局

修正する。小委員会とワンダグリンドの事業は分けて整理した方が良いか。

委員長

検討する必要がある。

事務局

了解した。

委員長

第3期釧路湿原自然再生普及行動計画になり大きく変わった部分は、湿原学習のための学校支援ワーキンググループの構成や仕組み、目的である。学校教育の現場で、児童、生徒と向き合っている先生に参加していただき、実際の授業や体験的な学習を企画するにあたって支援することを目指している。担当している先生の研修が必要になり、授業や活動において児童、生徒が湿原を体感できる企画立案の支援をすることの二面で行ってきた。思いつくことを行っているが、まだまだ何かできそうな気がする。先生の意識づけも含めて学校教育の中に取り込んでもらえるよう考える必要がある。

委員

学校からビジターセンターやこどもエコクラブに申し込まれることもあるが、先生が個

人的に依頼に来る場合もある。

委員長

色々な団体で行っていることと連携することは可能か。

委員

頼まれることはある。ある程度まとめて、どのように行っていくかを話し合う必要がある。

委員長

委員は問題に感じていることはあるか。交通の手段、経費等は共通の課題だと思うが大変ではないか。

委員

何時までに帰らなくてはいけないという時間的な制約がある。また、先生によっては企画も立てずにこちら側に丸投げ状態であったりする場合もある。

企画を立てて現地に行ってから施設が壊れていて通れない、予定していたことができないということがある。そういうことをきちんと管理し、把握しておくことも必要である。

委員長

そういう事は頻繁にあるようであり参考にさせて頂く。見学だけではなく体験として感じ取れる事を提供したい。それには様々な問題を解決しなければいけない。施設が壊れて立ち入りができないというのは問題である。

【議題2．自然再生の普及のためのパンフレットの作成について】

事務局

資料説明（資料 2-1、2-2、2-3）

委員長

年度内発行が絶対条件になる。前回の小委員会で大きな問題や部分的な微調整、言葉遣い等の様々な意見をいただいた。修正可能な部分は、28 ページ版と 24 ページ版のどちらにするか、表題の変更、裏表紙に書かれた発行元についてのチェック、内部の文章の文字についてである。基本的に中学生が読んで自然に読めるような文章にしたいということが原則であった。また、文字や文章量を減らすためのQRコードの導入や、表や写真を大きくし見やすくするという意見が多くあった。それらに対応して作成を行っている。

事務局

24 ページ版では表紙に目次を書いているが、28 ページ版では表紙の裏に地図と目次を書いている。地図に表示された取り組みが何ページを見れば良いかということが 28 ページ版ではわかりやすくなっている。生態系サービスについては、24 ページ版では 1 ページにまとめていたが、28 ページ版では 2 ページに分けて紹介するため見易くなっている。湿原再生については、情報量が多すぎる部分を 2 ページに分けて見やすくした。見開きにしたいということもあり、ページ順は一部変更がある。

委員長

持って外に出る機会が多い事を考えると、一つの項目が見開きで記述されていなければ不便である。そのことから 28 ページ版での検討を行った。そのため順序に変更があるが、そのゆとりを生かして図を少し大きくした。以前は字を少なくできないか、表が専門的すぎないか等の意見があったが、その点についての意見、感想はないか。

委員

一般の方が読むことを考えると文字を減らし、柔らかい字体を使用すると良い。中学生程度を対象にする場合、難しい漢字にふり仮名をふる必要がある。

委員長

実際に印刷する際には、読みやすい字体を使用する等工夫する必要がある。文字量は減らしたがまだ減らすべきか。各小委員会からの原稿で、片方では達古武沼、もう片方では達古武湖となっている。また、同じ単語でも漢字とひらがなの違い、送りがなの違いなどがあるため大至急確認を行う。本日出た意見に対応できるよう努力する。

当初、パンフレットとしては 24 ページで考えていたが、28 ページ版で決めたいがどうか。

委員

(賛成)

委員長

文字数やことば遣いを検討し、28 ページ版を使ってできる限り対応したい。写真については変更の余地はあるのか。

事務局

変更の余地はあるが、基本的にはこれを使う。

委員長

写真について意見はないか。前回会議での意見では色の種類が多いことなどが挙げられていたが、その点についての意見はないか。

委員

字が小さいと感じる。このパンフレットを見る対象者は誰なのか。

委員

書体によっては、同じポイント数でも字を大きくすることが可能であると思う。

委員

主に細かい字が読める人を対象にするということであれば問題ない。写真が小さすぎて分かり難いものは削除してはどうか。見学会状況（9 ページ）の写真をここまで大きくする必要はあるのか。ヒツジグサ（11 ページ）の写真が載っているが、これはエゾベニヒツジグサに見える。

委員長

正確ではないということか。

委員

再確認したほうがよいと思う。ヒシの刈取りの写真（11 ページ）は何をしているかわかりにくい。市民参加型イベントの開催写真等がわかりやすい。

委員

字体やポイント数については、デザイナーと相談しながらスタンダードを設ける必要がある。

委員長

全体の文章のフォントは共通化する必要がある。比較的多数の人に受け入れてもらえるものでなければいけない。パンフレット作成担当者に伺うが、見やすい字体に変えることは可能なのか。

事務局

フォント、ポイント数等のある程度コントロールすることは可能である。これまでは、各小委員会ですとまとめたものを与えられたスペースに組むという作業を行ってきた。本文に使われているフォントは明朝体という書体であるが、これをゴシック系の書体にすれば少し膨らんで見せることができる。しかし、このパンフレットでは文章量が多く詰めた形で

打ち出すことから明朝体を使用した。

同じスペースでゴシック系の書体に組み替える場合、縦長の文字に組み直す等の工程が必要になる。写真の調整はある程度可能である。11 ページの図版では右側に小さな文字が組まれた形でお預かりし、そのまま使っているが、別途画像処理を行うことで調整可能である。写真を間引いて見やすく組み直す等、本日の意見を踏まえて再調整する。中学生程度が読者対象であることから、小学校で習う漢字は全て漢字にし、小学校で習わない漢字についてはルビを振る等、次の段階で調整したい。

委員長

ある程度希望に応じる余地があるということである。11 ページについて問題が指摘されていたが、13 ページの6つの写真や11 ページでの湖面を覆うヒシでは、説明が無ければ何の写真かわからない。トリミングを行い大きくする等、調整を行っていく。意見のすべてに対応はできないが、可能かどうかを検討させていただきたい。

表紙の題名を決めたい。いくつかの案が出ている。釧路湿原や自然再生という言葉は、キーワードであり使わざるを得ない。パンフレットという言葉はいらぬ。「湿原とともに暮らす未来の子どもたちのために」をサブタイトルとしているが、これをメインタイトルにしてはどうか。釧路湿原の自然再生をサブタイトルにし、格好が良い題名にした方が良いのでは。などという意見が出ている。

委員

メインタイトルを「湿原とともに暮らす未来の子どもたちのために」として、釧路湿原自然再生はどこかに記載すれば良いのでは。また、表紙の写真はいつもこのパターンなので、25 ページのイラストにしてはどうか。インパクトがあるのは写真よりイラストである。

委員

昨年度、原案作りを担当していた。デザイン重視で組み直して頂くことを前提に、図面や写真は間に合わせのものを使用した。例えば、11 ページの図では説明文は図とセットになっていることから縮小すると文字も小さくなる。前回の会議でもビジュアルを重視して欲しいという意見が非常に多くあった。図を大きくして図を中心にする。入りきらない写真や図は優先度を付けて減らす等によりビジュアルを重視してはどうか。また、全体に無駄なスペースがあるページ（22 ページ～25 ページ）では、デザインの組み方で全部崩して組み直すことにより見やすくすることが可能ではないか。会議資料としてワープロで作成したものが原版となっており、デザインはプロの方に組み直していただきたい。

各委員会の実実施計画のページ右上に、地図アイコンのようなものが載せてあるが、原案作成時に仮に入れたものであり、取ってしまうかもしくは具体的に判るような大ききで場所を示した方が良い。

パンフレットというタイトルはやめたほうが良い。最初の段階で、自然再生のガイドブックを作ろうと提案してきたものであり、「ガイドブック」でよいのではないか。

委員長

最初にパンフレットを作る企画がスタートした際に、例えばこんな形でというように原案を作成した。これに縛られる必要はない。小さい写真をたくさん使用するのではなく、写真を選別してはどうか。文字を減らして図や写真をメインにするという意見である。表紙については、無意識のうちにある一つの型にはまりそうになるが、場合によってはそれを壊しても良い。例えばこのイラストは横向きであるが何か工夫が必要ではないか。

委員

工夫すれば可能ではないか。全面にこの写真を載せるのではなく、二段組みにするなどすれば良い。

委員長

デザインの問題だということか。

委員

そうである。例えばイラストの下段に目次を入れることができる。

委員長

実現できるかは別として検討事項に入れたい。

委員

全体的に文字が多いという印象である。8ページにある「リファレンスサイト」という言葉は一般の方が理解できるのか。私達が読んでいて違和感がないものでも一般の方には注釈が必要である。噛み砕いた説明が必要な言葉遣いが散在している。

各小委員会の活動等、全体構想を参照してもらえるものについてはここでは省き、スペースは他の使い方をしてはどうか。

委員長

全体構想と重複しない、より具体的な文章にするということか。

委員

全く別のことを言う必要はないが、全体構想とは違った形で丁寧に説明がしてあると良い。現段階では全体構想より文章量が多過ぎ、むしろわかりにくくなっている印象を受け

る。

委員長

全体構想は抽象的に全体的なことが書いてあり具体的な部分は少ない。それがここに入ればという意見か。

委員

そうである。

15 ページのグラフは、魚の種類を色分けして表示しているが、どんな種類がいたかまではわからなくても良い。単純に棒グラフ 1 色で 2 種類だったものが 10 何種類に増えたという方がわかりやすい。細かいデータを見たい場合にはQRコード等で対応してはどうか。中学生程度であれば、曖昧な方がわかりやすい場合がある。

委員長

具体的に検討してみたい。

委員

各委員会の持ち寄りとなっていることで統一性に欠けてしまったのではないか。それぞれの言いたい事はわかるが、全部集まると難しいという印象である。

委員長

最初の前案からは少しずつ良くなっているか。

委員

良くなっている箇所はあるが、全体として見た時には難しい。

高橋委員長

各小委員会からの原稿持ち寄りが基本であるが、できるだけそのような印象は避けたい。

委員

表紙の写真は最初から変わらない。我々の目指す自然再生は、30 年前 40 年前の湿原であるので、是非この写真をメインとして使ってほしい。

このパンフレットでは達古武沼は達古武湖にするという話が出ていた。私は 10 年来大学で自然地理学を教えているが沼は湖とは違う。国土地理院での表記は達古武沼となっており、この地図は全世界に広がっている。私は学生に湖と沼は違う。達古武は沼。塘路は湖。春採湖は湖。それらを定める観点は深さと生態系を総合して判断するものである。そのこと

から、湖にするのであれば、ここではこのような表記にすると書かなければいけない。達古武沼は、釧路町では、達古武オートキャンプ場のパンフレットでの記載から達古武沼から急に達古武湖と変更になった。釧路町の担当課長に聞いたところ、鳥獣保護区域が拡大した際の文章で間違っ達古武湖として出してしまい、官報にそのまま載ってしまったためだということ。それから釧路町では達古武湖と言われるようになった。しかし、あくまでも地名、ローカルネームである。正式には沼である。シラルトロも沼である。そういう事をおさえた上でここに書くのであれば、何処かに欄を作って湖、沼の勉強をしよう。同じ海跡湖であっても生態系からいうと一つは沼であり、一つは湖であると記載すべき。

委員長

ウエットランドセンターではそれについての見解はあるのか。

委員

見解は無い。

前回の意見では、できるだけ見やすく文字を大きめにし、詳細情報はQRコードを付けてという意見が出ていた。今回のパンフレットでは、文字列の検索でホームページを見て欲しいということだが、ページの詳細までたどり着くことは容易であるのか。

委員長

容易ではないと考える。やはりQRコードを積極的に取り入れる必要がある。

委員

表紙のサブタイトル「湿原とともに暮らす未来の子どもたちのために」は何処かで使いまわしてきた言葉であったか。

委員長

釧路湿原再生協議会で決定した全体構想のサブタイトルで「未来の子どもたちのために」という言葉が使われている。

【3. その他】

事務局

釧路湿原国立公園は1987年の7月31日に国立公園に指定されており、来年度30周年を迎える。釧路湿原国立公園連絡協議会を中心に指定30周年記念事業を展開する。これまでに記念事業実行委員会を2回開催し、今後も引き続き事業の内容について検討を行う。記念式典は釧路市観光国際交流センターにて7月下旬に開催予定である。合わせて自然公園関係功労者環境大臣表彰の表彰式を開催し、全国の表彰者が釧路に集まる予定である。ま

た、釧路湿原国立公園の管理に尽力いただいている方々に北海道知事より感謝状を贈ることを考えている。環境省の温根内ビジターセンターは完全リニューアルし、4月のオープン時にキックオフイベントを行う。毎年ゴールデンウィークに新宿御苑で行われているみどりフェスタにおいて、釧路市を事務局として30周年のPRを行う予定である。冠事業とは、既存のイベントを含めた釧路湿原の自然を活用したイベントで、イベント名に「国立公園指定30周年」と冠して30周年をPRする。今後ご協力をお願いすることもあると思うので、よろしく願います。

委員長

30周年記念事業は釧路市で大々的に行われるのか。

委員

釧路市を含めた実行委員会を作ってイベントを企画しているが、詳細はまだ決まっていない。

委員長

再生普及小委員会の委員にも30周年だということは意識してほしい。

事務局

学校支援ワーキングの次回会議は1月10日開催予定である。

2月11日開催予定の冬期フィールドワークショップのチラシを配布した。参加を検討願う。次回の再生普及小委員会は来年の6月開催予定である。

事務局

本日の議事内容については、2月開催予定の釧路湿原自然再生協議会までにまとめた。再生普及小委員会を閉会とする。

=閉会=